



明治 12 年開校
創立 145 周年

強く 正しく 美しく

野里の子

令和 6 年度(7 月号)
〒893-0056
鹿屋市上野町 4155 番地
TEL (0994)42-3408
FAX (0994)40-1243

読解力を身に付けるために

校長 米村 英紀

1 学期が終わります。1 学期には、運動会や宿泊学習など大きな学校行事がありました。行事への取組をとおして、子どもたちは大きく成長しました。それ以外も毎日の学校生活で子どもたちのがんばりがあつた、とても充実した 1 学期だったと感じています。私自身の学校経営を振り返ってみると、今年度のキャッチフレーズ「笑顔あふれる野里小」が達成できたかという点においては、まだまだ努力が足りなかったと反省しています。野里小の全員の子どもが毎日笑顔で充実した学校生活を送ることができるように、いろいろな所に気配り、目配りをしていきます。そして、私自身も毎日、学校で笑顔で過ごすことができるようにします。



以前、新井紀子さんの著書、『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』を読んだことがあります。ここに書かれていた、日本の中高生の多くが、教科書を正確に「読めていない」という実態には、大きな衝撃を受けました。読解力については、他方面からも課題が指摘されています。OECD が加盟国の 15 歳の学生を対象に 3 年ごとに実施している学習到達度調査 (PISA) の結果によると、日本は国際的に見て平均得点が高い上位グループに位置しているものの、読解力の平均得点は低下していることが明らかになっています。実際に日々の学習の中でも、授業では活躍しているのにテストになると力を発揮できない子どもがいます。これは、問題の意味を正しく読み取ることができていなかったり、問題に正対した表現で答えられなかったりすることが原因であることが多いです。7 月に行われた教育相談で 4 月に行われた学力検査の個票をお配りしましたが、本校においても読解力の向上は取り組むべき重要な課題であると言えます。

文章を正しく読めないことには、様々な理由が考えられます。例えば、集中して読むことができない、語彙が乏しい、ドリル的なものばかり取り組んできたことによる弊害、批判的に読むことができず矛盾に気付けない、などがあり、対策も一律にこれをやればよいというものはありません。

本校では、「れんげのわ」の方々による読み聞かせ、毎週火曜日に行っている「親子 20 分間読書運動」11 月に行われる読書スタンプラリーや読書郵便など、校内読書月間に行われる様々な取組が充実しています。日々の学習の中でも、文章を読んで自分の考えを整理することや、関係の考察、情報を取り出して整理することなどを取り入れた授業を意識的に行い、読解力の向上を目指していきたいと考えています。

夏休みは少しゆったりと本に向き合う時間がとれるかもしれませんが、読書をすることは、読解力の向上に直結すると思います。未来にはばたく子ども達が生きていくために必要な力を身に付けていくために、今後も地域、保護者の皆様と手を取り合ってがんばっていきましょう。

夏休みの学習について

1 学期には、学校で授業に関する研修会を数回行いました。1 時間の授業について検討し、そしてその授業中の子どもたちの姿から私たちの指導方法等について学びを深めました。また、今年は、本校では学力向上を学校の大きな研究テーマに掲げ、全職員が自分なりのテーマを設定して、研修に取り組んでいます。



今年度の 4 月に行われた学力検査においては、本校の学力が全国と比べて下回っているという結果が出ました。昨年度の学校としての取組を大いに反省する必要があると考えています。夏季休業中に職員で学力検査の詳細な分析を行い、2 学期以降の学力向上の取組に生かしていきます。そして、校内においても研修の時間を設定し、一人一人の職員の指導力向上に努めて参ります。

明日からの夏休みに向けては、子どもたちには課題帳を配付してあります。どのように取り組むかはそれぞれの学級で子どもたちに指導してあります。夏休みですので、普段はなかなかできないような体験的な学習に取り組ませるとともに、基礎的な学力が身に付くように御協力いただければ幸いです。

